

✿ メモリアル・秩父

『ご自宅葬・ホール葬 ご安心価格にて、ご奉仕致します!!』

施主花は葬儀の時だけ
 仮壇は四十九日まで（忌明け）
 白木位牌は四十九日以後は本位牌に（空・新帰元は除く）
 位牌は忌明け後に仏壇へ



1 末期の水

死者が再び生き返ることを願い、水を与えることをいいます。新しい筆先か、割箸の先に脱脂綿を包み、白いヒモで縛ったものに水を含ませ、唇にうるおす程度にしめらせてやります。

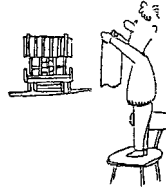
血のつながりの深い遺族からとります。



2 神棚封じ

神棚は扉を閉めて、白い紙で封じます。これは、死の穢（けが）れを避ける意があると、考えられます。

七七日忌（四十九日）の忌明けまではおきます。



3 枕飾り

ご遺体を安置したら、枕元に飾ります。これは、白い布をかけた小さな机（経机）に、三具足（花・香・灯明）を飾り、一膳飯・枕団子・水などを供えるものです。三具足は、仏前供養の基本になる仏具であり、向かって左から花・香・灯明の順で並べます。

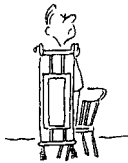
*一膳飯：故人に最期の食物を捧げる意味で一膳盛りです。その上から箸を立てるのは、“不幸を他人に分配しない”という意味があります。



4 掛軸

古来から、床の間は神霊の降りる所とされ、床柱は門松や地鎮祭などにたてる斎竹と同じく聖俗の境界をあらわしています。

忌中や供養の祈りに「南無阿彌陀仏」「南無妙法蓮華経」の各号、題目や「十三仏」「観世音菩薩」などの画像を掛けて、招来する神仏を明らかにして床の間に飾ります。



5 北枕

仏教では、ご遺体を安置するとき、釈尊入滅の際の姿勢（頭北面西）にならない、頭を北にして寝かせます。

このことを、北枕・枕返し・頭北面西・頭北面西右脇臥などいいます。どうしても北枕に出来ない場合は、西枕にします。



6 逆さごと

湯灌の際には、水にお湯をさしたり（逆さ水）枕元には逆さ屏風をたてるなど、吊いを日常の作法とは逆の作法でおこないます。これを“逆さごと”といい今日の葬送儀礼の中にも受け継がれています。死後の時間の逆行や位置の逆転とかかわっているといわれています。ご遺体の回りに、日常と逆のことが多いのは《死にあやかるまい》という意味があるのです。



7 死装束

死装束は経帷子を着せ、天冠を頭に六文銭の入った頭陀袋を首に掛け手甲、脚絆、足袋、草鞋といった古い時代の旅装束で、杖まで持たせます。これから冥途への長い道のりを杖をついて旅立つてゆくための衣装で、頭陀袋の六文銭は、三途の川の渡り賃だといわれています。

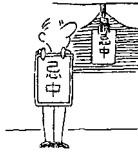
*六文銭：三途の川の渡し役が、六地藏いて、それぞれに一文ずつ合計六文の渡し賃をもたせるからといわれています。



8 忌中札

不幸にあった事を知らせるために半紙に黒枠をつけて、忌中と書いて表に貼り出します。昔は、すだれを裏返して忌中札を貼るのが習わしでした。

提灯を表に飾るのも忌中札同様、死を知らせるコミュニケーションの手段の一つとなっています。



9 喪服

昔は喪服は白を用いました。特に死者の身代わりを務める喪主は、死装束を身につけるといいう意味もあるようです。今日では黒の正装を用いることが多くなりました。男性は、黒のモーニングか黒羽二重の染抜き五つ紋付きに羽織袴。女性は、黒のアフタヌーンドレスか黒無地に染抜きの五つ紋付きに白羽二重の下着を重ねます。



葬祭ディレクターに
 お任せ下さい!!

まさかの時……、こんな時だからこそ、
 技術・経験・知識・安心・保証が必要になって参ります。
 厚生労働大臣認定の国家資格を持った葬祭ディレクターが
 常に皆様の立場に立って、親身になってご相談を承ります!